

20代30代に急増している子宮頸がん

【どんな病気なの?】

子宮頸がんは20代後半から30代に急増しており、この年代の女性に発症するがんの第1位です。日本では1日に約10人の女性が子宮頸がんによって大切な命を失っています。

子宮頸がんの主な原因は、ヒトパピローマウイルスであることがはつきりとわかっています。このウイルスは非常にありふれたものです。性交渉により感染しますが、コンドームでは完全に防ぐことができません。そのため、性交渉の経験のある女性なら、年齢に関わらず誰でも子宮頸がんになる可能性があります。

もちろん、多くの人は風邪を引いた時と同じように、自分の免疫力でウイルスを排出できます。しかし、高リスクと呼ばれるタイプのウイルスに感染した場合、ウイルスが子宮の入り口付近の細胞に異常を引き起こし、年月を経てがんとなってしまうことがあります。

子宮頸がんは初期には全く症状がないことがほとんどで、自分で気づくことはできません。進行してしまうと、赤ちゃんが産めなくなるだけでなく、命にかかわることもある怖い病気です。

ただし、定期的に検診を受けていれば、ごく初期の段階から細胞の異常を発見することができ、患部だけ取り除く治療を行い、子宮を残すことができます。もちろん、妊娠出産も可能です。

【子宮頸がん検診の流れ】
①問診
初潮年齢や生理の様子、妊娠・出産経験の有無、月経の状況、自覚症状の有無などについてお聞きします。

②視診
内診台に上がり、子宮頸部の状態を目で見て確認し、鏡で子宮頸部の状態を観察します。検診は個室で行われ、内診台ではお腹付近でカーテンが引かれ、直接医師の姿が見えない様な配慮をします。



お問合わせは、
市保健センター
TEL (25) 1725、FAX (25) 18655へ。

③細胞診

やわらかいヘラやブラシのようなものを膣に挿入し、子宮頸部の粘膜を軽くなでるように採取します。痛みはほとんどありません。

【子宮頸がん検診を受けましょう】
子宮頸がんワクチンが導入されていますが、ワクチン接種だけでは完全に子宮頸がんを予防できません。より確実に予防するために、20歳を過ぎたら2年に1回必ず子宮頸がん検診を受けることが必要です。特に、若い世代の受診に関しては、母親の役割がとても重要です。大切な子宮を守るためにぜひ母娘で受診してください。



お問合わせは、
市保健センター
TEL (25) 1725、FAX (25) 18655へ。

子宮がん検診を実施します

市では子宮がん検診（集団検診）を実施します。

対象者 平成25年4月1日現在20歳以上の女性で、生まれ年が西暦で奇数年（昭和で偶数年または平成で奇数年）の方

※隔年（二年に一回）で受診していただきます。／検査方法 子宮頸部細胞診（問診の内容により子宮体部の検査を行う場合があります。）／費用 500円／受付時間

9時30分～10時30分、13時～14時／申込方法 希望日の10日前までに市健康管理課へご連絡ください。

※対象者のうち、平成23年度に受診された方は平成24年度にクーポン券を使用し受診された方には、受診票等を郵送しています。

お問合わせは、市健康管理課（2階）
TEL (20) 1574、FAX (20) 16000へ。

平成25年度 子宮がん検診日程表

実施日	会場	午前	午後
11月5日(木)	市保健センター	○	○
11月6日(金)	本納公民館	○	○
11月8日(土)	東部台文化会館	○	○
11月11日(月)	市保健センター	○	○
11月13日(水)	鶴枝公民館	○	○
11月21日(木)	豊岡福祉センター	○	△
	市保健センター	△	○
11月22日(金)	市保健センター	○	△
	五郷福祉センター	△	○
11月23日(土)	市保健センター	○	○
12月16日(月)	市保健センター	○	○
12月17日(火)	市保健センター	○	○

受付時間 午前の部 9時30分～10時30分
午後の部 13時～14時